科目コード	R24209	科目名	基礎理学療法評価学				
履修区分	必修	開講期	1年後期	授業回数	8回	単位数	1単位
担当者	甲田　宗嗣						
授業の概要	理学療法における評価の位置付け、検査・測定・評価の概要、各種情報の活用など理学療法評価学の基礎を学び、理学療法治療との関連について学ぶ。						
DPとの関連	①平和を希求する心と豊かな人間性を身につける						ー
	②修得した専門知識・技術を基盤にした総合的臨床能力を身につける						◎
	③高い倫理観をもち、自己を変革しつづける能力を身につける						△
	④地域社会・国際社会と協働し、人々の健康生活のニーズに対応できる能力を身につける						△
	2025年度以降の学則適用者用のDPとの関連を記載しています。2024年度以前の学則適用者は項目順や表現が異なりますので注意してください						
	※DP：ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）＝卒業までに身に付けるべき資質・能力						
到達目標	理学療法プロセスにおける評価の位置付けを説明できる。 問診により患者から情報を取得できる。 具体的な医療情報を与えられれば、理学療法を行う際に留意すべきことを調べることができる。						
履修上の注意事項	C-learningを利用するので、スマートフォン等にインストールし、準備しておくこと。						

授業計画	回数	講義内容【担当教員】	事前・事後学修
	1	理学療法における評価の位置づけ	Webページ事前学習（60分）、ICFの復習（60分）、疾患と障害の関連を調べる（60分）
	2	医療情報の収集と活用	Webページ事前学習（60分）、介護保険の理解（60分）、授業中に提示した論文2本抄読（60分）
	3	全体像の評価	Webページ事前学習（60分）、インフォームドコンセントを調べる（60分）、面接技法の練習（60分）
	4	生活機能（障害）に応じた評価	Webページ事前学習（60分）、検査・測定の尺度を考察する（60分）
	5	臨床検査所見、画像初見の活用	Webページ事前学習（60分）、主な臨床検査初見の内容確認（60分）、画像の基本の項抄読（60分）
	6	評価を理学療法に活かす	Webページ事前学習（60分）、理学療法プロセスの復習（60分）、検査・測定とICFの関係（60分）
	7	診療録＝カルテの記録	Webページ事前学習（60分）、模擬症例のカルテ記載（60分）
	8	まとめ	総復習（60分）

成績評価方法	期末試験100% ただし、受験資格を満たしていない場合は評価の対象としない。

	書名・著者（出版社）	ISBNコード
教科書	理学療法評価学　改訂第6版 ・ 松澤正、江口勝彦（金原出版）	978-4-307-75068-4
	リハビリテーション医療に活かす画像のみかた ・ 水間正澄、川手信行（南江堂）	978-4-524-25907-6
参考書		

教員からのメッセージ	疑問や分からないことがあれば、質問フォームを使って積極的に聞いてください。
教員との連絡方法	C-learningを利用してください。
実務経験のある教員	急性期病院での診療（整形外科、脳神経外科、呼吸器科、循環器科等）。回復期リハビリテーション病院の開設準備、診療（脳卒中、多発外傷、神経難病、脊髄損傷、下肢切断等）、管理業務。専門理学療法士（神経、運動器、基礎、教育・管理）、公認心理師、呼吸療法認定士。